

# 鳥取縣公報

第 壹 千 號

昭和十四年二月三日

金曜日

## 告 示

鳥取縣告示第七十六號

農工設定セラル鳥取縣獎勵各種配合肥料ノ製造ヲ停止シ新ニ鳥取縣臨時配合肥料十四種ヲ左記ノ通定

昭和十四年二月三日

鳥取縣知事 副 見 齋 雄

鳥取縣臨時配合肥料

鳥取縣臨時配合肥料第一號

基礎 種名 標準	基礎 配合 割合	保證(表示)成分量 (百分中)	施 用 方 法
----------------	----------------	--------------------	---------

硫酸アンモニア

一、七〇〇

望素全量 六、三

地方中庸品種旭農球六號、其他獎勵品種普通

大豆油粕

二、九〇〇

アンモニア 三、四

栽培ノ場合次ノ通施肥ス

水 稻	適用作物	過可鑑大硫 溶磷一豆酸 一六榨油アン 六擦粕モニア	一、二〇〇 三、一〇〇 六五〇 四五〇	一〇、〇〇〇	磷酸全量 五、九 可溶性磷酸 四、八 加里全量 四、二 水溶性加里 四、二	〇基肥 堆厩肥 反當 三〇〇貫 (又ハ紫雲英) 反當 三〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 (一呎)
		米 糠	一〇、〇〇〇	水溶性加里 四、二	一、施肥ニ當ツテハ堆厩肥又ハ紫雲英等ノ基 本自給肥料用ノ施用量地方ノ肥瘠品種及 栽培方法等ヲ斟酌シ必要ニ應シ右ノ配合 肥料ノ施用量ヲ(反當一呎ヲ限度トシテ) 増減スルコト 二、紫雲英使用ノ際ハ相當量ノ石灰(反當一 五貫一〇貫程度)ヲ施用スルコト 三、生育狀況ニ應シ追肥ニ施用スルモ可ナリ 追肥ノ際ハ反當一呎前後ヲ標準トシテ施 用スルコト	

水 稻	適用作物	米 糠	一〇、〇〇〇	水溶性加里 三、八	地方中庸品種旭農林六號其他獎勵品種普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス	〇基肥 堆厩肥 反當 三〇〇貫 (又ハ紫雲英) 反當 三〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 (一呎)
		過可鑑大硫 溶磷一豆酸 一六榨油アン 六擦粕モニア	二、八五〇 一、一〇〇 三、四〇〇 一、四〇〇	可溶性磷酸 四、四 加里全量 三、三 水溶性加里 三、八		

鳥取縣臨時配合肥料第二號

原 料 名 稱 準 基 配 合 準 假 證 (表示成分量 (百分中))

應 用 方 法

適 應 係

適用地域及土性

山間部花崗岩並ニ海濱部沖積層砂  
土、砂壤土地方  
主トシテ八頭郡用ケ瀬 東伯郡西  
郷東郷松崎日野郡石見 多里郡  
ヲ中心トセル山間部地方並岩美郡  
福部氣高郡正條 東伯郡由良  
大誠部西伯郡弓濱部 米子市等ヲ  
中心トセル海濱部地方

(注意)

一、施肥ニ當ツテハ堆厩肥又ハ紫雲英等基本  
自給肥料ヲ施用シ自給肥料ノ施用量地方  
ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ必要ニ  
應シ右ノ配合肥料ノ施用量(反當二呎ヲ  
限度トシテ)ヲ増減スルコト  
二、紫雲英施用ノ際ハ相當量ノ石灰(反當一  
五貫一〇貫程度)ヲ施用スルコト  
三、生育ノ狀況ニ應シ追肥ニ施用スルモ可ナ  
リ追肥ノ際ハ反當一呎前後ヲ標準トシテ  
施用スルコト

鳥取縣臨時配合肥料第三號	施用方法	保證(表示成分量)(百分中)	配合割合	基料名稱	原料名稱
地方中庸品種旭農林六號其ノ他獎勵品種普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス	〇基肥、堆厩肥 (又ハ紫雲英) 本配合肥料	窒素全量 五、七 ア性窒素 三、六 磷酸全量 七、六 可溶性磷酸六、五 加里全量 四、〇 水溶性加里 四、〇	一、八〇〇 二、〇〇〇 一、〇〇〇 四、二〇〇 一、〇〇〇	硫酸アンモニア 大豆油粕 大溶一六 過磷酸石 鹽化加里 米計	大豆油粕 硫酸アンモニア 大溶一六 過磷酸石 鹽化加里 米計
<p>(注意)</p> <p>一、施肥ニ當ツテハ堆厩肥又ハ紫雲英基本自給肥料ヲ施用シ自給肥料ノ施用量地方ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ必要ニ應シ右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適當ニ加減スルコト</p> <p>二、紫雲英施用ノ際ハ相當量ノ石灰(反當一五貫)ニ〇貫程度ヲ施用スルコト</p> <p>三、生育狀況ニ應シ追肥ニ施用スルモ可ナリ追肥ノ際ハ反當一畝前後ヲ標準トシテ施用スルコト</p>	<p>〇基肥 堆厩肥 反當 三〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇〇貫</p> <p>〇追肥 人糞尿 反當 一〇〇貫 人糞尿 反當 二〇〇貫 過磷酸石灰 反當 二貫 木灰 反當 一五貫 (又ハ右各追肥ノ代用トシテ鳥取縣臨時配合肥料第五號ヲ反當一〇貫施用スルコト)</p>				

鳥取縣臨時配合肥料第四號	施用方法	保證(表示成分量)(百分中)	配合割合	基料名稱	原料名稱
地方中庸品種大、小、稗麥縣獎勵品種及ビール麥普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス	〇基肥 堆厩肥 反當 三〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇〇貫	窒素全量 六、五 ア性窒素 四、二 磷酸全量 五、〇 可溶性磷酸 四、三 加里全量 四、六 水溶性加里 四、六	二、一〇〇 三、七〇〇 二、八〇〇 七、七〇〇 一、〇〇〇	硫酸アンモニア 大豆油粕 大溶一六 過磷酸石 鹽化加里 米計	大豆油粕 硫酸アンモニア 大溶一六 過磷酸石 鹽化加里 米計
<p>(注意)</p> <p>一、施肥ニ當ツツテハ努メテ自給肥料ヲ施用シ自給肥料施用量地方ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ必要ニ應シ右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適當ニ加減スルコト</p> <p>二、土地ノ酸性程度ニ依リ相當量ノ石灰(反當一〇貫一五貫程度)ノ施用ヲ考慮スルコト</p>	<p>〇基肥 堆厩肥 反當 三〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇〇貫</p> <p>〇追肥 人糞尿 反當 一〇〇貫 人糞尿 反當 二〇〇貫 過磷酸石灰 反當 二貫 木灰 反當 一五貫 (又ハ右各追肥ノ代用トシテ鳥取縣臨時配合肥料第五號ヲ反當一〇貫施用スルコト)</p>				

鳥取縣臨時配合肥料第五號		鳥取縣臨時配合肥料第六號	
基原	基原	基原	基原
原料名稱	原料名稱	原料名稱	原料名稱
硫酸アンモニア 糞 可溶六 過磷酸 鹽化 米計	硫酸アンモニア 糞 可溶六 過磷酸 鹽化 米計	硫酸アンモニア 糞 可溶六 過磷酸 鹽化 米計	硫酸アンモニア 糞 可溶六 過磷酸 鹽化 米計
配合割合	配合割合	配合割合	配合割合
一、五〇〇 三、五〇〇 二、七〇〇 八〇〇 五〇〇	一、九〇〇 二、九〇〇 二、三〇〇 九〇〇 八〇〇	一、九〇〇 二、九〇〇 二、三〇〇 九〇〇 八〇〇	一、九〇〇 二、九〇〇 二、三〇〇 九〇〇 八〇〇
保證(表示)成分量(百分中)	保證(表示)成分量(百分中)	保證(表示)成分量(百分中)	保證(表示)成分量(百分中)
窒素全量 八、二 アンモニ 五、一 ア性窒素 磷全量 六、一 可溶性磷 四、一 加里全量 四、七 水溶性加里 四、七	窒素全量 七、六 アンモニ 三、八 ア性窒素 四、四 磷全量 四、四 可溶性磷 二、九 加里全量 五、五 水溶性加里 五、九	窒素全量 七、六 アンモニ 三、八 ア性窒素 四、四 磷全量 四、四 可溶性磷 二、九 加里全量 五、五 水溶性加里 五、九	窒素全量 七、六 アンモニ 三、八 ア性窒素 四、四 磷全量 四、四 可溶性磷 二、九 加里全量 五、五 水溶性加里 五、九
適用作物	適用作物	適用作物	適用作物
麥 (追肥用)	麥 (追肥用)	麥 (追肥用)	麥 (追肥用)
適用地域及土性	適用地域及土性	適用地域及土性	適用地域及土性
河川流域平坦部 砂壤土 洪積層火山灰腐植土(黒ボク)山間部並海濱部砂土地方縣下一般	河川流域平坦部 砂壤土 洪積層火山灰腐植土(黒ボク)山間部並海濱部砂土地方縣下一般	河川流域平坦部 砂壤土 洪積層火山灰腐植土(黒ボク)山間部並海濱部砂土地方縣下一般	河川流域平坦部 砂壤土 洪積層火山灰腐植土(黒ボク)山間部並海濱部砂土地方縣下一般
施用方法	施用方法	施用方法	施用方法
一、施肥ニ當ツテハ努メテ自給肥料ヲ施用シ 自給肥料ノ施用量、地力ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ更ニ生育狀況ニ應シ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適宜加減スルモト	一、施肥ニ當ツテハ努メテ自給肥料ヲ施用シ 自給肥料ノ施用量、地力ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ更ニ生育狀況ニ應シ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適宜加減スルモト	一、施肥ニ當ツテハ努メテ自給肥料ヲ施用シ 自給肥料ノ施用量、地力ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ更ニ生育狀況ニ應シ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適宜加減スルモト	一、施肥ニ當ツテハ努メテ自給肥料ヲ施用シ 自給肥料ノ施用量、地力ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ更ニ生育狀況ニ應シ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適宜加減スルモト
(注意)	(注意)	(注意)	(注意)
〇基肥 堆厩肥 反當 三〇〇貫 鳥取縣臨時配合肥料第四號反當一〇〇貫 人糞尿 反當 一〇〇貫 液肥(人糞尿ノ薄メタ)反 三〇〇貫 本配合肥料 (ルモ) 及汚水等) 當 一〇貫 (二叭)	〇秋肥 堆厩肥(糞渣堆肥) 反當 四〇〇貫 綠肥 反當 二〇〇貫 本配合肥料 反當 二〇貫 〇夏肥 人糞尿 反當 一五〇貫 本配合肥料 反當 二〇貫 綠肥 反當 二〇貫	〇秋肥 堆厩肥(糞渣堆肥) 反當 四〇〇貫 綠肥 反當 二〇〇貫 本配合肥料 反當 二〇貫 〇夏肥 人糞尿 反當 一五〇貫 本配合肥料 反當 二〇貫 綠肥 反當 二〇貫	〇秋肥 堆厩肥(糞渣堆肥) 反當 四〇〇貫 綠肥 反當 二〇〇貫 本配合肥料 反當 二〇貫 〇夏肥 人糞尿 反當 一五〇貫 本配合肥料 反當 二〇貫 綠肥 反當 二〇貫

鳥取縣臨時配合肥料第六號		鳥取縣臨時配合肥料第六號	
基原	基原	基原	基原
原料名稱	原料名稱	原料名稱	原料名稱
硫酸アンモニア 大豆油粕 可溶六 過磷酸 鹽化 米計	硫酸アンモニア 大豆油粕 可溶六 過磷酸 鹽化 米計	硫酸アンモニア 大豆油粕 可溶六 過磷酸 鹽化 米計	硫酸アンモニア 大豆油粕 可溶六 過磷酸 鹽化 米計
配合割合	配合割合	配合割合	配合割合
一、九〇〇 二、九〇〇 二、三〇〇 九〇〇 八〇〇	一、九〇〇 二、九〇〇 二、三〇〇 九〇〇 八〇〇	一、九〇〇 二、九〇〇 二、三〇〇 九〇〇 八〇〇	一、九〇〇 二、九〇〇 二、三〇〇 九〇〇 八〇〇
保證(表示)成分量(百分中)	保證(表示)成分量(百分中)	保證(表示)成分量(百分中)	保證(表示)成分量(百分中)
窒素全量 七、六 アンモニ 三、八 ア性窒素 四、四 磷全量 四、四 可溶性磷 二、九 加里全量 五、五 水溶性加里 五、九	窒素全量 七、六 アンモニ 三、八 ア性窒素 四、四 磷全量 四、四 可溶性磷 二、九 加里全量 五、五 水溶性加里 五、九	窒素全量 七、六 アンモニ 三、八 ア性窒素 四、四 磷全量 四、四 可溶性磷 二、九 加里全量 五、五 水溶性加里 五、九	窒素全量 七、六 アンモニ 三、八 ア性窒素 四、四 磷全量 四、四 可溶性磷 二、九 加里全量 五、五 水溶性加里 五、九
適用作物	適用作物	適用作物	適用作物
桑	桑	桑	桑
適用地域及土性	適用地域及土性	適用地域及土性	適用地域及土性
洪積層 沖積層 砂壤土 壤土 地方 岩美郡宇倍野 成器 八 頭郡賀茂 散岐 氣高郡 明治 東郡倉吉 旭 西伯郡所子 尚 徳郡日野郡溝口 黒坂等ヲ中心ト セル地方	洪積層 沖積層 砂壤土 壤土 地方 岩美郡宇倍野 成器 八 頭郡賀茂 散岐 氣高郡 明治 東郡倉吉 旭 西伯郡所子 尚 徳郡日野郡溝口 黒坂等ヲ中心ト セル地方	洪積層 沖積層 砂壤土 壤土 地方 岩美郡宇倍野 成器 八 頭郡賀茂 散岐 氣高郡 明治 東郡倉吉 旭 西伯郡所子 尚 徳郡日野郡溝口 黒坂等ヲ中心ト セル地方	洪積層 沖積層 砂壤土 壤土 地方 岩美郡宇倍野 成器 八 頭郡賀茂 散岐 氣高郡 明治 東郡倉吉 旭 西伯郡所子 尚 徳郡日野郡溝口 黒坂等ヲ中心ト セル地方
施用方法	施用方法	施用方法	施用方法
地方中庸、品種、改良鼠返、魯桑、其他獎勵品種 春秋壯蠶用桑園ノ普通栽培ノ場合次ノ通り施肥ス	地方中庸、品種、改良鼠返、魯桑、其他獎勵品種 春秋壯蠶用桑園ノ普通栽培ノ場合次ノ通り施肥ス	地方中庸、品種、改良鼠返、魯桑、其他獎勵品種 春秋壯蠶用桑園ノ普通栽培ノ場合次ノ通り施肥ス	地方中庸、品種、改良鼠返、魯桑、其他獎勵品種 春秋壯蠶用桑園ノ普通栽培ノ場合次ノ通り施肥ス
(注意)	(注意)	(注意)	(注意)
一、施肥ニ當ツテハ努メテ自給肥料ヲ施用シ 自給肥料ノ施用量地力ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ必要ニ應シ右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適宜加減スルコト 二、土地酸性ノ程度ニ依リ相當量ノ石灰(反當一五貫二〇貫程度)ノ施用ヲ考慮スルコト	一、施肥ニ當ツテハ努メテ自給肥料ヲ施用シ 自給肥料ノ施用量地力ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ必要ニ應シ右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適宜加減スルコト 二、土地酸性ノ程度ニ依リ相當量ノ石灰(反當一五貫二〇貫程度)ノ施用ヲ考慮スルコト	一、施肥ニ當ツテハ努メテ自給肥料ヲ施用シ 自給肥料ノ施用量地力ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ必要ニ應シ右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適宜加減スルコト 二、土地酸性ノ程度ニ依リ相當量ノ石灰(反當一五貫二〇貫程度)ノ施用ヲ考慮スルコト	一、施肥ニ當ツテハ努メテ自給肥料ヲ施用シ 自給肥料ノ施用量地力ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ必要ニ應シ右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適宜加減スルコト 二、土地酸性ノ程度ニ依リ相當量ノ石灰(反當一五貫二〇貫程度)ノ施用ヲ考慮スルコト

00959

鳥取縣臨時配合肥料第七號		鳥取縣臨時配合肥料第八號	
原料名稱	配合割合	保證(表示)成分量(百分中)	施用方法
硫酸アンモニア	一、六〇〇	窒素全量 七、四	<p>(注意)</p> <p>一、施肥ニ當ツテハ努メテ自給肥料ヲ施用シ自給肥料ノ施用量地方ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ必要ニ應ジ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適宜加減スルコト</p> <p>二、土地酸性ノ程度ニ依リ相當量ノ石灰(反當一五貫一〇貫程度)ノ施用ヲ考ヘス</p>
大豆油粕	三、六〇〇	アソニ全量 三、二	
可溶性六六六	二、三〇〇	アソニ全量 四、二	
過磷酸石灰	一、八〇〇	可溶性磷酸三、七	
計	一〇、〇〇〇	加水全量 四、五	
適用作物	適用地域及土性	適用地域及土性	
大豆	海濱部 沖積層 砂土 砂壤土地	地方中精、品種、改良、鼠返、魯桑、其他縣獎勵品種春秋壯蠶桑園ノ普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス	
桑	主トシテ西伯郡弓濱部 東伯郡橋津長瀬 由良 八橋 氣高郡青谷湖山 正條 岩美郡 浦富等ヲ中心トスル地方	地方中庸、品種改良、鼠返、魯桑、其ノ他縣獎勵品種春秋壯蠶桑園ノ普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス	

00960

鳥取縣臨時配合肥料第八號		鳥取縣臨時配合肥料第七號	
原料名稱	配合割合	保證(表示)成分量(百分中)	施用方法
硫酸アンモニア	二、一〇〇	窒素全量 七、七	<p>(注意)</p> <p>一、施肥ニ當ツテハ努メテ自給肥料ヲ施用シ自給肥料ノ施用量地方ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ必要ニ應ジ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適宜加減スルコト</p> <p>二、土地酸性ノ程度ニ依リ相當量ノ石灰(反當一五貫一〇貫程度)ノ施用ヲ考ヘス</p>
大豆油粕	二、五〇〇	アソニ全量 四、二	
可溶性六六六	二、二〇〇	アソニ全量 五、二	
過磷酸石灰	二、四七〇	可溶性磷酸三、八	
計	一〇、〇〇〇	加水全量 四、六	
適用作物	適用地域及土性	適用地域及土性	
大豆	海濱部 沖積層 砂土 砂壤土地	地方中庸、品種改良、鼠返、魯桑、其ノ他縣獎勵品種春秋壯蠶桑園ノ普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス	
桑	主トシテ東伯郡榮、逢東、西伯郡御來屋 光徳 日野郡溝口 八郷等ヲ中心トセル地方	地方中庸、品種改良、鼠返、魯桑、其ノ他縣獎勵品種春秋壯蠶桑園ノ普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス	

桑	原料名稱標準	硫酸アンモニア 大豆油粕	配合標準	窒素全量 五、〇 アンモニ ア性窒素 一、三 磷酸全量 六、七	保證表示(成分量 (百分中))	施用方 法
	適用作物	米 糠 過磷酸 石灰 可溶性 磷酸 六 加 里	配合標準	窒素全量 四、二 アンモニ ア性窒素 二、六 磷酸全量 四、二	保證表示(成分量 (百分中))	
適用作物	適用地域及土性	洪積層 沖積層 砂壤土 縣下一 般	係	可溶性磷酸四、八 加里全量六、七 水溶性加里六、七	係	地方中庸、品種、市平、遠州高助、改良鼠返 春稚蠶及秋稚蠶、桑園ニ對シ次ノ通施肥ス ○秋肥 堆厩肥(糞渣堆肥) 反當 五〇〇貫 ○夏肥 本配合肥料 反當 二〇〇貫 綠肥 反當 二〇〇貫 (注意) 一、施肥ニ當ツテハ努メテ自給肥料ヲ施用シ 自給肥料ノ施用量地力ノ肥瘠品種及栽培 方法ヲ斟酌シ必要ニ應シ右ノ配合肥料ノ 施用量其ノ他施用方法ヲ適宜加減スルコ ト 二、土地酸性ノ程度ニ依リ相當量ノ石灰(反 當一五貫—二〇貫程度)ノ施用ヲ考慮ス ルコト

梨	原料名稱標準	硫酸アンモニア 大豆油粕	配合標準	窒素全量 六、七 アンモニ ア性窒素 二、六 磷酸全量 四、二	保證表示(成分量 (百分中))	施用方 法
	適用作物	可溶性 磷酸 六 加 里 過磷酸 石灰 硫酸	配合標準	窒素全量 六、七 アンモニ ア性窒素 二、六 磷酸全量 四、二	保證表示(成分量 (百分中))	
適用作物	適用地域及土性	花崗岩系並第三紀層 壤土 壤埴 土地方 主トシテ岩美郡津ノ井 八頭郡賀 茂私都 氣高郡松保 東伯郡東 郷舍人 西伯郡尙徳等ヲ中心ト スル地方	係	可溶性磷酸二、六 加里全量六、六 水溶性加里六、〇〇	係	地方中庸、品種、二十世紀梨 成果樹(七匁以上)ニ對シ次ノ通施肥 ス ○基肥 堆肥 反當 三〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇〇貫(一〇呎) 乃當 一八〇貫(二八呎) (注意) 一、施肥ニ當ツテハ必ず自給肥料ヲ施用スル コト、地力ノ肥瘠樹齡袋掛數量ヲ斟酌シ 右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ 適宜加減スルコト 二、土地酸性ノ程度ニ依リ相當量ノ石灰(反 當一五貫—二〇貫程度)ノ施用ヲ考慮ス ルコト

鳥取縣臨時配合肥料 第十一號		施用方
梨	適用地域及土性 大山、扇ノ山系大山灰 腐壇土 (黒ホク) 主トシテ八頭郡智頭 岩美郡宇倍野 氣高郡豊貴 東伯郡八橋等ヲ中心トスル地方	地方中庸、品種二十世紀梨ニ對シ次ノ通施肥 ○基肥 堆肥 反當 三〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇〇貫(一〇呎)乃至一八〇貫(一八呎) (注意) 一、施肥ニ當ツテハ必ず自給肥料ヲ施用スル コト地方ノ肥瘠掛齡袋掛數量ヲ斟酌シ右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適宜加減スルコト 二、土地酸性ノ程度ニ依リ相當量ノ石灰(反當一五貫—二〇貫程度)ノ施用ヲ考慮スルコト
原料名稱	配合割合	保證(表示)成分量(百分中)
硫酸アンモニア 大豆油粕 可溶一六 過磷酸石里 計	一、二三〇 二、五八〇 二、五八〇 二、三八〇 一、〇〇〇	窒素全量 六、二 アンモニア性窒素 二、四 磷酸全量 五、二 可溶性磷酸三、六 加里全量 六、一 水溶性加里六、一
適用作物	適用地域及土性	係

鳥取縣臨時配合肥料 第十二號		施用方
甘藷	適用地域及土性 沖積層 洪積層 砂土 砂壤土地 方 主トシテ岩美郡福部 浦富 氣高郡湖山 東伯郡大誠 由良 西伯郡大篠津 外江 彦名村等ヲ中心トセル弓濱部地方	地方中庸、品種岩手二號山陰二號、源氏、伯川赤 其他普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス ○基肥 堆厩肥 反當 三〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫(一呎) ○追肥 木灰 反當 二〇貫(二呎) (注意) 一、施肥ニ當ツテハ必ず自給肥料ヲ施用スル コト自給肥料ノ施用量地方ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ必要ニ應シ右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適當ニ加減スルコト
原料名稱	配合割合	保證(表示)成分量(百分中)
硫酸アンモニア 大豆油粕 可溶一六 過磷酸石里 計	一、九〇〇 二、〇〇〇 四、五〇〇 一、五〇〇 一、〇〇〇	窒素全量 五、〇 アンモニア性窒素 三、八 磷酸全量 七、七 可溶性磷酸七、七 加里全量 七、三 水溶性加里七、三
適用作物	適用地域及土性	係

鳥取縣臨時配合肥料第十號		鳥取縣臨時配合肥料第十號
適用作物	甘藷	大豆、油粕
適用地域及土性	大山、扇ノ山系大山灰腐植土(黒ボク)地方 主トシテ氣高郡逢坂、東伯郡榮社、赤碕、西伯郡名和、光徳庄、内日野郡溝口、八郷等ヲ中心トスル地方	山間部堆厩肥等基本自給肥料ノ豊富ナル地域ノ砂壤土、壤埴土地方 主トシテ日野郡、八頭郡、氣高郡山間部地方
原料名稱標準	硫酸アンモニア	硫酸アンモニア
配合割合	二、〇〇〇 一、四五〇	二、九〇〇 一、五〇〇
保證(表示)成分量(百分中)	窒素全量 四、八 アンモニア性窒素 四、〇	窒素全量 七、〇 アンモニア性窒素 五、九
施用方法	地方中庸、品種、岩手二號、山陰二號、源氏伯川赤其ノ他普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス ○基肥 堆厩肥 反當 三〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 ○追肥 木灰 反當 二〇貫 (注意) 一、施肥ニ當ツテハ必ず自給肥料ヲ施用スルコト、自給肥料ノ施用量地方ノ肥瘠品種及栽培方法等ヲ斟酌シ必要ニ應シ右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適當ニ加減スルコト	地方中庸、品種旭、農林六號、其他縣獎勵品種普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス ○基肥 堆厩肥 反當 四〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 ○追肥 堆厩肥 反當 四〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 (注意) 一、施肥ニ當ツテハ必ず基本自給肥料ヲ施用スルコト、地方ノ肥瘠、自給肥料ノ多少ニ依リ右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適當ニ加減スルコト 地方中庸品種、大小、稈麥、縣獎勵品種普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス ○基肥 堆厩肥 反當 四〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 ○追肥 堆厩肥 反當 四〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 (注意) 一、施肥ニ當ツテハ必ず基本自給肥料ヲ施用スルコト、地方ノ肥瘠、自給肥料ノ多少ニ依リ右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適當ニ加減スルコト

鳥取縣臨時配合肥料第十四號		鳥取縣臨時配合肥料第十四號
適用作物	麥、水稻	大豆、油粕
適用地域及土性	山間部堆厩肥等基本自給肥料ノ豊富ナル地域ノ砂壤土、壤埴土地方 主トシテ日野郡、八頭郡、氣高郡山間部地方	山間部堆厩肥等基本自給肥料ノ豊富ナル地域ノ砂壤土、壤埴土地方 主トシテ日野郡、八頭郡、氣高郡山間部地方
原料名稱標準	硫酸アンモニア	硫酸アンモニア
配合割合	二、九〇〇 一、五〇〇	二、九〇〇 一、五〇〇
保證(表示)成分量(百分中)	窒素全量 七、〇 アンモニア性窒素 五、九	窒素全量 七、〇 アンモニア性窒素 五、九
施用方法	地方中庸、品種旭、農林六號、其他縣獎勵品種普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス ○基肥 堆厩肥 反當 四〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 ○追肥 堆厩肥 反當 四〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 (注意) 一、施肥ニ當ツテハ必ず基本自給肥料ヲ施用スルコト、地方ノ肥瘠、自給肥料ノ多少ニ依リ右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適當ニ加減スルコト 地方中庸品種、大小、稈麥、縣獎勵品種普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス ○基肥 堆厩肥 反當 四〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 ○追肥 堆厩肥 反當 四〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 (注意) 一、施肥ニ當ツテハ必ず基本自給肥料ヲ施用スルコト、地方ノ肥瘠、自給肥料ノ多少ニ依リ右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適當ニ加減スルコト	地方中庸、品種旭、農林六號、其他縣獎勵品種普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス ○基肥 堆厩肥 反當 四〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 ○追肥 堆厩肥 反當 四〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 (注意) 一、施肥ニ當ツテハ必ず基本自給肥料ヲ施用スルコト、地方ノ肥瘠、自給肥料ノ多少ニ依リ右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適當ニ加減スルコト 地方中庸品種、大小、稈麥、縣獎勵品種普通栽培ノ場合次ノ通施肥ス ○基肥 堆厩肥 反當 四〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 ○追肥 堆厩肥 反當 四〇〇貫 本配合肥料 反當 一〇貫 (注意) 一、施肥ニ當ツテハ必ず基本自給肥料ヲ施用スルコト、地方ノ肥瘠、自給肥料ノ多少ニ依リ右ノ配合肥料ノ施用量其ノ他施用方法ヲ適當ニ加減スルコト



00967

鳥取縣臨時配合肥料ニ對スル制限事項

(一) 配合原料ニ關スル事項

(イ) 原料名稱及各原料ニ含有スル百分ノ一以上ノ窒素、磷酸加里ノ最少量並ニ制限事項 (百分中)

原料名稱	各原料ニ含有スル百分ノ一以上ノ窒素、磷酸加里ノ最少量			制限事項
	窒素	磷酸加里	加里	
蠶蛹油粕	八、〇	四、〇	—	鹽分(NaCl)及土砂ノ含有量各五、〇以下
大豆油粕	八、五	—	—	
浸出大豆油粕	六、〇	—	—	
荳油粕	七、〇	—	—	
棉實油粕	五、〇	—	—	
米糠油粕	五、〇	—	—	
米糠	二、〇	—	—	
硫酸アンモニア	一、五	三、〇	—	水溶性磷酸ヲ含有スル原料ト配合ヲ爲ス場合ハ石灰(CaO)ノ含有量三、〇以下
過磷酸石灰	性ニ〇、〇	可溶性	—	遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )及砒素(As <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )ノ含有量各〇、五以下 遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下
硫酸加里	—	—	—	遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下 遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下 遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下 遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下 遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下 遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下 遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下
硫酸加里	—	—	—	遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下 遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下 遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下 遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下
硫酸加里	—	—	—	遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下 遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下 遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下 遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下 遊離硫酸(H <sub>2</sub> SO <sub>4</sub> )ノ含有量〇、五以下

00968

基準原料名稱	代用	又	併用	原料名稱
蠶蛹油粕	蠶蛹油粕			蠶蛹油粕(但シ鳥取縣臨時配合肥料第十號及第十一號ニ付テハ之ヲ認メズ)
大豆油粕	浸出大豆油粕、棉實油粕、荳油粕			大豆油粕、棉實油粕、荳油粕
米糠	米糠油粕			米糠油粕
可溶一六過磷酸石灰	各種過磷酸石灰			各種過磷酸石灰
硫酸加里	鹽化加里 (但シ鳥取縣臨時配合肥料第十號第十一號第十二號及第十三號ニ付テハ之ヲ認メズ)			硫酸加里
鹽化加里	硫酸加里			硫酸加里

(ロ) 原料ノ代用又ハ併用ニ關スル事項

左ノ範圍ニ於テ原料ノ代用又ハ併用ヲ認ム

但シ原料ノ代用又ハ併用ニ付テハ豫メ本縣ト打合ヲ爲スベシ

- (ハ) 配合割合ノ變更ニ關スル事項
- 保證(表示)成分量ニ異動ナキ範圍ニ於テ配合割合ヲ變更スルモ妨ゲナシ
- 但シ有機成分ヲ無機成分ヲ以テ補フ如キ配合割合ノ變更ハ之ヲ認メズ
- (ニ) 原料ノ粉砕程度ニ關スル事項
- 原料ノ大サハ二分目ノ篩ヲ通ズルモノヲ使用スルコト

- (二) 重量ニ關スル事項  
本肥料一以ノ重量ハ正味拾貫(三七、五斤)入トス
- (三) 票箋ニ關スル事項  
本肥料製造後ハ遲滞ナク各肥料毎ニ肥料名稱、原料名稱、配合割合、適應關係、施用方法、正味重量、及製造者氏名又ハ名稱ヲ記載シタル票箋(左ノ様式ニ依ル)ヲ各容器ノ外部ニ添付スベシ

但シ右事項ノ内原料名稱及配合割合ハ實際使用セルモノヲ記載スベシ  
肥料取締法ニ依リ保證票ヲ添付スベキ肥料以外ノ肥料ニ在リテハ前項ニ掲グル事項ノ外表示成分量製造年月及製造場ノ名稱又ハ所在地ヲモ記載スベシ  
鳥取縣臨時配合肥料第何號正味十貫(三七、五斤)

製造年月	原料名稱	配合割合	表示成分量 (百分中)	適用	關係	施用	方法
				製造者氏名又ハ名稱 製造場ノ名稱又ハ所在地	適用地域及土性	施	方
	貫	本欄ハ(三)ノ第 二項ノ場合ニ限 リ記載スルコト					

本欄ハ製造者ノ名又ハ名稱ヲ除キ(三)ノ第ニ項ノ場合ニ限リ記載スルコト

三、參 考 事 項

本縣臨時配合肥料原料ノ基準成分量ハ左ノ如シ(百分中)

原料名稱	窒素全量	アンモニア性窒素	磷酸全量	可溶性磷酸	加里全量	水溶性加里
硫酸アンモニア	二〇、八	二〇、八				
大豆油粕	六、二		一、〇		一、五	
錫 榨 粕	九、〇		五、〇			
可溶一六 過燐酸石灰			一六、五	一六、〇		
可溶一九 過燐酸石灰			二〇、三	一九、七		
硫酸加里					四八、〇	四八、〇
鹽化加里					六〇、〇	六〇、〇
米 糠	一、五				一、〇	
蠶 蛹 油 粕	九、〇					
浸出大豆油粕	七、二				一、八	
棉 實 油 粕	五、三				一、〇	
在 油 粕	六、〇				一、〇	
米 糠 油 粕	二、五		五、〇		一、五	

備考 一植物油粕類及米糠ノ水溶性加里基準成分量ハ加里全量ノ九割トス

鳥取縣告示第七十七號  
西伯郡高麗村長田耕地整理組合長岡副長左ノ通選任ノ件認可セリ  
昭和十四年二月三日

鳥取縣知事	副	見	喬	雄
西伯郡高麗村大字長田				
組合長	飯	田	善	次
同郡同村大字同				
組合副長	入	江	正	一

鳥取縣告示第七十八號  
東高郡鹿野町河内川第二耕地整理組合設計書變更ノ件認可セリ  
昭和十四年二月三日

鳥取縣知事	副	見	喬	雄
鳥取縣知事	副	見	喬	雄

鳥取縣告示第七十九號  
昭和十四年二月三日左記ノ者ニ對シ動力糶業免許證ヲ下付セリ  
昭和十四年二月三日

免許證番號	住	所	氏名
一九〇	岩美郡福部村大字海士十二番屋敷		濱本六次

鳥取縣告示第八十號

羽伯牛犢生產檢査規則第一條ニ依ル生産檢査ヲ左ノ通施行ス依テ昭和十三年十一月二十七日迄ニ生産シタル犢ノ所有者又ハ管理者ハ該犢ヲ所定ノ檢査所ニ牽付ケ檢査ヲ受クヘシ  
昭和十四年二月三日

鳥取縣知事 副 見 喬 雄

檢査月日 檢査場所 檢査區域 牽付時刻

二月六日 日野郡 二部村福岡 二部村一圓 午後前十時

二月七日 溝口町中祖 溝口町ノ内、古市、庄、中祖、父原、溝口、谷川、富原、宇代、長山、上野、大江、大岩、丸山、須村、小林、大原、眞野、番原、久古、別所、林ヶ原、清山

二月八日 八郷村丸山 八郷村久古 午後一時半

二月九日 八頭郡清原 八頭郡清原 午前十一時半

二月十日 江尾村江尾 江尾村江尾 午後一時

二月十三日 米澤村美用 米澤村宮市原 午前十一時半

二月十四日	神奈川村 俊野 神奈川村 洲ヶ崎	神奈川村 一圓	午前十一時半
二月二十三日	根雨町 濁谷 根雨町 金持	濁谷、三土、川谷、秋繩 橋井原、金持	午後二時
二月二十四日	日野村 榎市 日野村 本郷	榎市、小原、別所 本郷	午後一時
二月二十五日	日野村 下榎 日野郡 畜産組合	下榎、安原津地 日野村 宇野田舟場 根雨町 宇根雨、具原、三谷、高尾	午後一時
二月二十七日	黑坂町 上菅 黑坂町 黒坂	日野郡 黒坂町 一圓	午後二時
三月一日	溝口町 根雨原	根雨原、白水	午前十一時
三月二日	同 金屋谷	金屋谷、岩立	午前十一時
三月三日	日光村 添谷 日光村 富江	添谷、大内、福兼 富江、大阪	午前十二時
三月四日	日光村 栃原	栃原、吉原、大河原、大瀧	午前十一時半
三月七日	石見村 神戶上 上石見	神戶上、花口 上石見、中石	午後十一時
三月八日	石見村 下石見	下石見、三吉	午前十一時

三月九日	福榮村 福塚	福榮村 一圓	午前十一時半
三月十日	多里村 多里	多里村 一圓	午前十一時半
三月十一日	日野上村 三榮	日野上村 一圓	午前十一時
三月十三日	山上村 茶屋	山上村 一圓	午前十一時半
三月十四日	阿毘縁村 阿毘縁	阿毘縁村 一圓	午前十一時半
三月十五日	大宮村 印賀	大宮村 一圓	午前十一時半

鳥取縣告示第八十一號

昭和十四年一月三十日管下左記市町村ニ其ノ農地委員會ヲ設置シタリ

昭和十四年二月三日

鳥取縣知事

副

見

喬

雄

鳥取市	倉田村
岩美郡	八東村
八頭郡	千代水村
氣高郡	末恒村
同	日置谷村
同	勝部村
同	上中山村
東伯郡	

鳥取縣告示第八十二號

昭和十三年三月商工省令第八號揮發油及重油販賣取締規則第五條ノ二ノ規定ニ依ル團體左ノ通指定

昭和十四年二月三日

鳥取縣知事

副

見

喬

雄

一、團體名及代表者氏名

保證 浦富町漁業協同組合  
責任

理事 木

山

竹

治

二、主タル事務所ノ所在地

鳥取縣岩美郡浦富町

鳥取縣告示第八十三號

昭和十三年三月商工省令第八號揮發油及重油販賣取締規則第五條ノ二ノ規定ニ依ル團體左ノ通指定

昭和十四年二月三日

鳥取縣知事

副

見

喬

雄

一、團體名及代表者氏名

有限 泊村漁業協同組合  
責任

理事 島

崎

松

太

郎

二、主タル事務所ノ所在地

鳥取縣東伯郡泊村

鳥取縣告示第八十四號

昭和十三年三月商工省令第八號揮發油及重油販賣取締規則第五條ノ二ノ規定ニ依ル團體左ノ通指定

昭和十四年二月三日

鳥取縣知事

副

見

喬

雄

一、團體名及代表者氏名

保證 網代村漁業協同組合  
責任

理事 村

松

權

藏

二、主タル事務所ノ所在地

鳥取縣岩美郡網代村

00977

# 彙報

二月一日發行「週報」並ニ「寫眞週報」掲載内容左記ノ通

週報第百二十號掲載内容

## 一、戦争醫學

「主として事變戦傷者の收療について」

(陸軍省情報部)

## 一、船員登録制

(遞信省)

## 一、西南支那の抗日新ルート

(外務省情報部)

「寫眞週報」第五十號掲載内容

## 一、スペインから還る

## 一、警備の一新

## 一、カメラの尖兵(下)

## 一、頭腦を腕を我等が祖國へ

## 一、讀者のカメラ

## 行旅死亡人

### 一、取扱者 石川縣珠洲郡正院村長

一、本籍 住所 氏名 職業 年齢等 不詳

昭和十三年五月頃ヨリ死亡場所ナル正院村字正院高福寺納

屋ニ居住シ村内各戸ニ付乞食生活ヲナシ居タル聾啞者ナ

## 一、親族ノ氏名 不詳

推定年齢七十才位ノ老妻

身長四尺八寸位腰曲リ中肉、色白稍面長ト思ハル、鼻高キ

方、目、口兼、齒ナシ頭髮白毛混リ、乳房發育セザリシ

子ナリ

## 一、遺留物件

携帶品 現金拾壹圓也 内譯 五圓札一枚、壹圓札壹枚、

五拾錢銀貨五枚、十錢十四枚、五錢十七枚、一錢二十五枚

其ノ他ナシ

## 一、其ノ他本人ノ認識ニ必要ナル事項

十年前ヨリ珠洲郡内各町村ヲ轉々シ居タル事、本人聾啞

者ナルモ耳ハ若干聞エタル様推サレシ事

右心當リノ向ハ直接當該村長宛照會相成度

## ◎(其ノ一鳥根縣那賀郡井野村長扱)

一、昭和十四年一月十一日那賀郡井野村大字井野ホ一、二五八

番地

山林炭小屋内ニテ死体發見(餓死ト思料セラル)

二、本籍 住所 氏名 職業 不詳

推定年齢五十歳位 女

三、人相、丈四尺六寸位死後一週間ヲ經過、所持品ニヨレバ精

00978

# 正誤

神異常者ト推定サル

一、着衣 木綿ノ小サイ縞

五、所持品 蛇ノ目雨傘

六、假埋葬地 那賀郡井野村大字井野ホ一、二五八番地

右心當リノ向ハ直接當該村長宛照會相成度

(其ノ二鳥根縣能義郡安來町長扱)

一、昭和十三年五月頃死亡ト推定參會醫師ノ檢案ニ依レバ消化

器障害ニ依ル轉歸ニシテ外傷ヲ認メズ能義郡安來町木戸川

尻西方二二六尺中海海岸ニ死体漂着

二、本籍 住所 氏名 不詳

推定年齢二歳位成熟女兒

三、人相 腐爛ニシテ顔面損傷シ人相特徴判明メズ

四、着衣 ナシ

五、參會醫師ノ檢案及檢視官ノ認定意見

消化器障害リ依リ死ニ至リタルモノニシテ死後四ヶ月位經

過砂質土砂中ニ埋葬セラレタルモノナルガ昭和十三年九月

五日ノ大暴風雨ニ依リ墓地崩潰ノ爲埋葬中ノ死体流出漂着

セルモノト認メラル

右心當リノ向ハ直接當該町長宛照會相成度

頁	數	行	數	段	數	字	數	誤	植	正
二	四	一	一	四	三	字	目	山	川	川
二	六	五	五	五、六、七	六	字	目	○	畔	畔
二	六	一	一	下	三	字	目	辨	ノ	六
二	七	三	三	下	四	字	目	れ	結	結
二	八	四	四	下	三	字	目	こ	六	六
二	八	一	二	下	三	字	目	清	稱	稱
				段	ヨリ	下				

一月廿七日付發行鳥取縣公報第九百九十八號登載鳥取縣告示第六十號同第六十二號同第六十三號同第六十四號中左ノ通誤植ニ付訂正ス

二九	八	下	四	村	大	
三〇	一	下	三	虎	厩	
三一	五	下	三	孝	考	三三、三四頁ノ下段 井上孝喜ハ井上孝喜
三二	五	三				
三三	〇	三		二七九	二九七	
三四	一	七	五	兼	〇	
三五	一	二	一	兼		
三六	二	下	六	兼		
三八	三	六	五	村	村	
三九	一	六	五	二	三	
四〇	四	下	四	術	藏	
五一	〇	下	八	術	棉	
五二	三	〇	三	富	富	

二三頁八行目五段、七段、八段九段ハ左ノ通訂正ス

昭和十四年二月三日印刷  
昭和十四年二月三日發行

發行者 鳥取縣鳥取市東町縣  
印刷所 鳥取縣高郡大正村大字古海支所